

14日からは「決算審査」が始まります。  
いずれも10時から、どなたでも傍聴できます。

14日は、旧西尾市の一般会計。  
歳入～税収の状況、国・県からの補助金などなど  
歳出～合併にかかる電算関連、福祉、保健衛生

15日は、一般会計の続きで、労働、商工、農業、土木、  
消防、教育、そして市民病院会計と続きます。

15日（木）は、一般会計に加えて、特別会計の公共下水、  
農業集落排水ほか  
総額は、532億円。

16日（金）は、特別会計の続きで、国民健康保険、介護保険と  
後期高齢者医療。  
それが終わったら、一色町。  
一般会計（83億8500万円）  
下水道など5つの特別会計と  
一色独自の、渡船事業会計と佐久島診療所特別会計。

20日（月）は、吉良町の一般会計（85億4000万円）と6特別会計、  
吉良町独自のものは、土地取得特別会計。  
それが終わったら、  
幡豆町一般会計（48億円）と6特別会計。  
その後、  
ごみ・上水道などの広域連合、  
幡豆町消防組合(3町の消防署)の予定です。

いざという時に、市民が本当に頼りにするのは「お役所」。  
17万住民の安否情報、飲料水や食料の確保と配布、  
避難所の運営…  
今回のような激甚災害の時は、何をするにしても、まず役所の  
罹災証明が必要になります。

その意味では、まだ大丈夫とはいえません。

被災時に職員がどの程度集合できるかも、見直しがかけており、  
通信機器なども、合併によって大幅な見直しの最中といます。

被災想定が大きく変わるわけですから、やむを得ませんが、  
ともすれば、机の上の勘定になりがちだった計画、  
足で歩いて、実践的な内容にしてもらわなくてはなりません。

被災時の司令塔になるわけですから、市役所自体がちゃんと動くように、  
職員の飲料水や食料も十分に備蓄する必要があります。  
現在は、職員向けのはほとんどゼロ。  
期限切れに近いペットボトルと乾パンが少々なのです。  
もちろん、トイレ備蓄も考えられていません。

東日本の被災各地では、多くの職員が不眠不休で働いてきたことは  
みなさん、ご承知の通り。  
飲まず喰わずでは、それこそまともな「司令塔」にはなりません。  
ちゃんと働ける環境にすることも重要な災害対策と提言しました。

## 近況報告～9月議会の決算は、6つもの団体を審査しなくちゃなりません

5団体というのは、「旧3町」、「広域連合（ごみ、水道ほか）」、それと、3町合同で運営していた「幡豆消防組合」。

それぞれの団体は、合併によって消滅していますので西尾市で、22年度の決算を審査することになります。

決算委員は11名ですが、旧3町選出の議員には、全員さらに頑張ってもらわなくちゃ！！

決算委員会は、9月15・16・20・21日に市役所6階の第1委員会室で、10時から行われます。どなたでも傍聴できますし、出入りも自由です。

本会議と違って、質疑応答は、直接担当者の課長ですし、一問一答で行われますから、わかりやすく、実質的なやりとりが聴けますよ。

一部には、「どうせ、もう使っちゃったお金のこと。あれこれ言ってもしょうがないじゃん」という意見がありますが、それは間違い。

「その施策は妥当だったのか」⇒来年も続ける価値があるのか…

「費用対効果は、どの程度だったのか」⇒改善の余地はあるのかないのか、

⇒効果を上げるためには、どうしたらよいのか…

「同一施策が複数の担当にまたがっている場合」⇒ちゃんと進んでいるのか

⇒責任の押し付け合いになっていないか

などなど、

チェックする点は、さまざまあります。

（使途金額が正しいかどうかは、監査委員がみていますからよほど大丈夫）

議会が、住民代表としてチェックすべきは、ここです。

そして、

そのチェックいかに、来年の予算編成にどう活かしていくか、これが最大のポイントです。

## 近況報告～仮設住宅でのボランティア、引きつづき募集中

遠野VCでのボランティア活動は、  
仮設住宅での足湯、カフェの開設、写真復元など  
参加メニューはいろいろあります。

仮設住宅の方々が家に閉じこもらないように、  
住宅内で知り合いをつくって、  
みなさんで「コミュニティ」をつくっていただくためのお手伝いが  
主眼になってきています。

東北は、もともと地域力のあるところですから  
っと大丈夫だと思いますが、きっかけづくりですね。

瓦礫片付けから、泥出し、家屋の床板剥し  
河川の瓦礫撤去は、まだまだ続いていますから、引き続き  
ボランティアを募集しています。  
寝袋持参なら、体育館（女性は和室）に宿泊できますよ。

質問要旨は次のとおりです。

岩手では、被災した住民が、同じく被災しつつも懸命に業務を続ける「役場」を非常に気遣っておられました。

「行政機能がストップしたら、本当に困るのは住民だ」ということを肌で感じていることがひしひしと伝わってきました。

大規模災害の時は、住民への対策もさりながら、職員もちゃんと働けるような環境整備を私たちも考えていかなければならないと思います。

(現在、市役所には、職員向けの備蓄品はゼロなんですよ～、これじゃ大変！)

#### 議題1. 市役所庁舎の防災センター機能について

- ①防災センターとしての市庁舎の機能はどのようなか。現状で充分か。
- ②大規模災害時、支所との連携は充分にできる態勢になっているか。
- ③旧西尾市と旧3町とで違いのある防災無線の統合はどうするのか。
- ④市庁舎での飲料水などの備蓄は充分か。早急に飲料水兼用耐震性貯水槽を設置すべきと思うがどうか
- ⑤大規模災害時、市庁舎でトイレが使用できなくなった場合の対策は考えているか。
- ⑥帰宅困難者への対応はどうするのか。市役所で行うのか

## 近況報告～9月議会、ふたつめの議題は、くるりんバスの今後について

合併話を機に、3町からは、「西尾のようにバスが走るようになる…」との声があります。市として、くるりんバスをどのように、公共交通体系に位置づけるのか  
高齢化が進むなかで、どのように地域の足を確保していくのか  
そもそも、榊原市政に公共交通をどうしていくのかの確固たる考えがあるのか

「いいことづくめの合併説明」を聞いていたが、「こんなことだったのか?!」という反応もそこそこ出てきています。

行政サービスは青天井に何でもやれるわけではありません。

本当に必要なのは何なのか、

「やるべきこと」と「そうでないこと」と峻別していくことも重要です。

「あれもこれも」やっていくだけの力は、もはや、西尾にはありません。

その意味で、将来を見据えた地域の足の確保は「やるべきこと」。

住民のニーズを十二分に把握したうえで、一緒に作り上げていくことがポイントだと考えます。どこに、何が、どれだけ必要なのか…住民はどこまで求めているかをお互いに話し合いながら作り上げていくのが、ホントの意味での「市民との協働」ではないでしょうか。

走ったはいいけれど「ガラガラじゃん」にならないように、この地域に、どういう方策がよいのかを提言していきたいと考えます。

## 近況報告～六万石くるりんバス運行の充実・改善についての質問要旨

- ①他市のように、市役所内にくるりんバスを乗り入れ、利便性を高めるべきとの  
声があるがどうか
- ②文化会館など公共施設の停留所にベンチや屋根の設置を検討するとのことだったが、  
どうなったか
- ③合併に伴う地域公共交通網はどのように整備していく計画なのか。
- ④現在運行している地域でのくるりんバスの利用実態、乗降の状況はどのようか
- ⑤運行収支はどのようか。1運行あたりの経費、乗客1人あたり経費はどのようか。
- ⑥利便性を向上させ、利用者を増やすためには、低床車の導入を考えるべきではないのか
- ⑦旧西尾市で運行していない地域では、需要調査は行っていないのか
- ⑧合併に伴って、旧3町から、くるりんバスの運行が求められているときくがどうするのか。
- ⑨旧3町にバスを運行する場合は、名鉄西尾線、蒲郡線に接続するコースとすべきと思うが  
どうか。
- ⑩旧3町の需要はどの地域で、どの程度と見込んでいるか。需要調査はどのように  
なされているのか。
- ⑪運行要望の出ている地域に対しては、町内会など地域単位で利用者数など  
具体的な取りまとめを求め、地域と一体化したバス運行を考えていかないか。
- ⑫利用者から予約を受けて効率的に運行する「オンデマンド方式」バスは、  
どのように具体的に検討されているのか。
- ⑬3年間の試行を経て、さらに合併による拡大を考えるならば、市民による「事業評価」を  
制度化するべきではないか ほか